

面会のための対策(私案)

以下の資料は、これまでの多くの施設を訪問させて頂き、私なりに対応策を考えてみました。

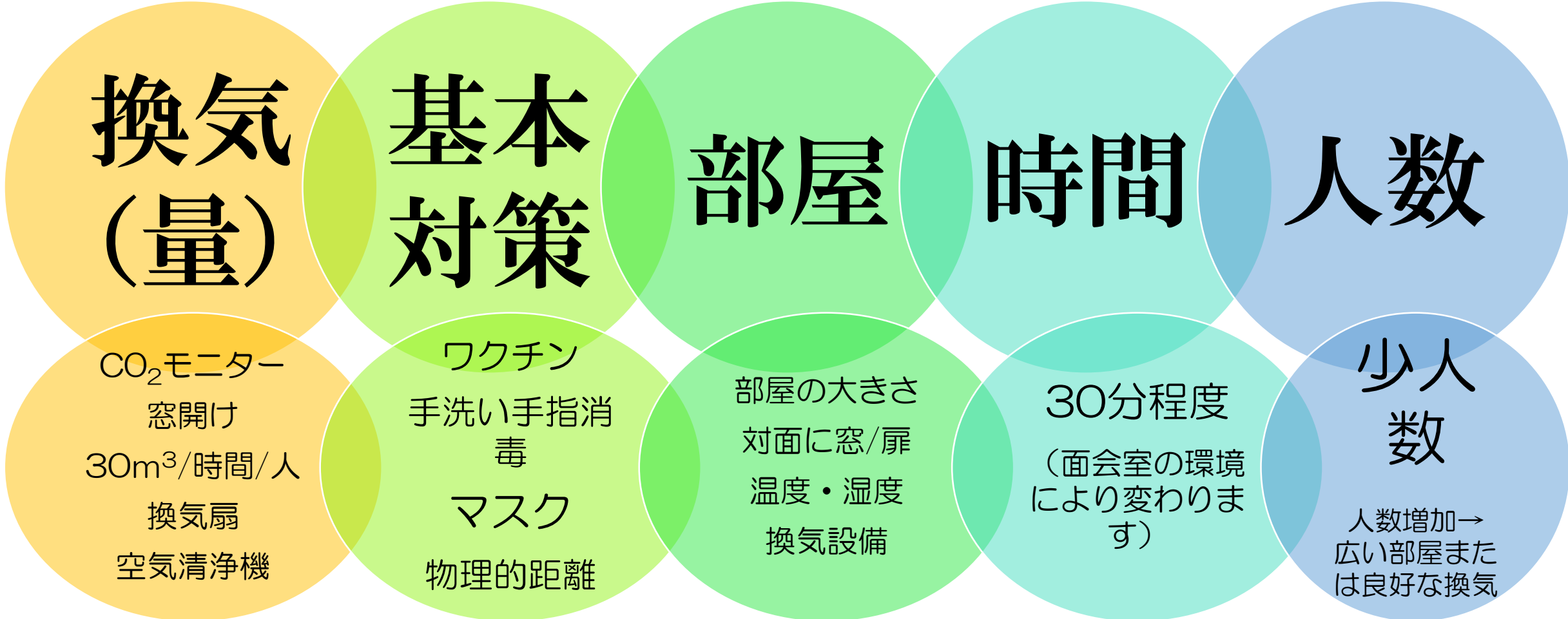
- 自然換気にまさる換気はありませんが、夏は利用者の熱中症のことも考慮する必要があり、換気状況を目で見るうえで二酸化炭素濃度計の導入とその計測値にもとづく対応策を作成してみましたので、ご参考にしてください。
- まず、排気口や給気口に埃は堆積していませんか？ あれば、清掃してください！
- 空調機が作動しているかを確認してください。
 - 換気扇や空調機（ロスナイなど）スイッチは「ON」になっていますか？
- そして、エアコンや空気清浄機のフィルターの掃除もお忘れなく

みなさんの施設での**対策の参考**にしてください。

注) 5/16の相談会での内容を一部変更・追加しています

手指衛生は感染予防対策の基本！日常生活でも実施しましょう！

訪問者のための具体的な対応(私案)



空気清浄機:HEPAフィルター付き、5m³/分(300m³/時間)
部屋:30m³/時間/人

注意) 空気清浄機を使用している場合には
CO₂濃度は信頼できない!

外部からの訪問者を迎える際の注意

来訪時の手指衛生は必須

症状なし/発熱なし

マスク（不織布）

退室時の手洗い

手指衛生は以下のどちらかで実施

- ① 流水と石鹼による手洗いと手指乾燥
- ② アルコール性速乾性手指消毒剤による手指消毒

来所時に新しいマスク着用

マスクが汚染されているかもしれないため

外部からの訪問者を迎えるにあたっての条件

- ①適切な感染対策を施設職員全員ができている。
- ②施設内の換気が十分にできている。
- ③施設の利用者が感染から守られている。
- ④訪問者に感染症を疑わせる症状がない。
- ⑤訪問者の家族に感染症を疑わせる症状がない。

職員・施設・利用者

① 適切な感染対策を施設職員全員ができている。

以下の対策が日常的に習慣としてできていること

- 手洗い及び手指消毒が適切にできる。
- 不織布マスクを着用している（ユニバーサルマスクング）
- 人と人の物理的に間隔をあける（フィジカルディスタンスング）
- 適切に予防接種が実施されている。

② 施設内の換気が十分にできている。

以下の対策が日常的に環境として整えられてる。

- 適切な換気状況であり、湿度や温度が適切である。
 - 1人30m³/時間以上の換気が確保されている
- CO2メーターが設置され、換気状況が把握されている。

③ 施設の利用者が感染から守られている。

- 適切に予防接種が実施されている。
- 適切な感染対策の指導がなされている。（認知症等は除く）

訪問者

- ④ 訪問者に感染症を疑わせる症状がない。
- ⑤ 訪問者の家族に感染症を疑わせる症状がない。
 - ・ 感染症を疑わせる症状がない
 - ・ 熱がない、全身倦怠がない、関節痛がない
 - ・ 頭痛がない、咽頭痛がない、咳がない
 - ・ 腹痛がない、下痢がない、嘔吐がない
 - ・ 皮膚に発疹がないなど
 - ・ 濃厚接触者になっていない。
- ⑥ 訪問後7日以内に訪問者またはその家族の陽性が判明すれば、施設に必ず連絡する。

訪問者やその家族が以下の対策が日常的に習慣化するよう指導

- ・ 手洗い及び手指消毒が適切にできる。
- ・ 不織布マスクを着用している(ユニバーサルマスクング)
- ・ 人と人の物理的に間隔をあける(フィジカルディスタンスング)

二酸化炭素濃度を指標にした面会方法

NDIR方式のCO2濃度計を準備
面会者と利用者ともにマスク着用

事前相談

- プライバシー保護
- 面会の時間と人数
- 飲食可能？

利用者

個室

複床室

面会専用室

食堂など
廊下とつながった
オープンスペース

予め室内の人数・時間とCO2濃度の関係を知っておく*

個室で面会

確認 換気スイッチON

CO2監視
自然換気：窓開け
機械換気（AHU）
（換気扇や熱交換器など）

室内の換気状況
CO2 > 1000ppm

換気状況
CO2 < 1000ppm

室内の換気状況
CO2 < 1000ppm

自然換気：窓開け
機械換気（AHU）
（換気扇や熱交換器など）

窓開けや換気扇等で
<1000ppmを維持

<1000ppmを
維持不可能

空気清浄機の導入
次ページへ

CO2濃度での
判断は不可

- * 面会室は、**換気良好**な場所を選ぶ。
- 換気不良なら空気清浄機を導入する。
 - この場合CO2濃度での換気状況監視は不可
 - HEPAフィルター付の空気清浄機を推奨（厚労省）
 - 1人あたり20~30m³/時間以上の換気量が確保できること
(例：4人なら、4X20~30 = 80~120m³/時間以上の換気量)

空気清浄機を使用した部屋の換気について

注意点) 空気清浄機使用時、二酸化炭素濃度測定は空気清浄機の効果を評価するための適切な評価方法とはならないことに留意する。HEPAフィルターによるろ過式の空気清浄機は、エアロゾル状態のウイルスを含む微粒子を捕集することができますが、二酸化炭素濃度を下げることができないため。(下記厚労省のHPから)

- 空気清浄機を選択する際の必須条件 (* 厚労省HPより)
 1. HEPAフィルターによる濾過式
 2. 風量が毎分5m³程度以上のもの
- 必要換気量の求め方
 - 安静時では1人あたり20m³/時間、軽作業時には30m³/時間程度を目安に
 - 部屋内の人数が5人なら 20m³/時間x5人=100 m³/時間以上を確保
- 空気清浄機の位置
 - 気流が動くように配置する (夏と冬では異なる: 図参照)
 - 吸い込み口が背面のものは正面を向くように (側面のものはそのまま)
- 空気清浄機による部屋の換気回数 (N 回/時間) の求め方
 - 部屋の体積 (V m³) = 床面積 (A m²) X 天井の高さ (B m)
 - 空気清浄機の風量 (Q m³/時間) = 空気清浄機の風量 (X m³/分) x 60分
 - 換気回数(N 回/時間) = V/Q
 - 少なくとも換気回数2回/時間以上が望ましい (医療施設は5回程度)

なお、空調機による給気・排気は無視しており、実際は上記の換気回数より増加する。

* 厚労省HP冬場における「換気の悪いし密閉空間」を改善するための換気の方法

<https://www.mhlw.go.jp/content/000698868.pdf>

HEPAフィルターとは：日本産業規格(JIS)で「定格流量で粒径が0.3μmの粒子に対して99.97%以上の粒子捕集効率をもち、かつ、初期圧力損失が245Pa(25mmH₂O)以下の性能を持つエアフィルタ」と規定されています。

